

ぶんかざいまるちなび

No.49

文化財 知 ナビ

このニュースターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。

ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

世界最古 垣ノ島B遺跡の漆

44号（令和元年7月22日発行）では、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界遺産を目指している、千歳市「キウス周堤墓群」、伊達市「北黄金貝塚」、洞爺湖町「入江貝塚」「高砂貝塚」、函館市「大船遺跡」「垣ノ島遺跡」、関連資産の森町「鷲ノ木遺跡」を紹介しました。

今回は、縄文文化の特徴の一つ、漆製品を紹介します。

ウルシノキの樹液を加工して塗った漆製品は非常に丈夫で、土の中で数千年も残ることがあります。

今知られている世界最古の漆製品は、函館市垣ノ島B遺跡で見つかった、ヘアバンドや肩当てのような編み物で、約9,000年前に作られたものです。

ウルシノキの樹液からゴミを取り除いたり、赤い色をつけるといった漆製品を製作するために必要な技術は完成しており、さらに古いものが見つかる可能性が高いと考えられています。



垣ノ島B遺跡出土漆製品（復元）

【函館市所蔵】

北海道の漆

ウルシノキは天然では発芽が難しく、また、縄文時代の漆の採取方法では一度採取するとウルシノキが枯れてしまうため、人が木を育てないとウルシノキがなくなってしまう。夏に樹液を集めた後、すぐに加工して使わないと固まってしまうため、ムラのそばに植える必要があります。

網走市のウルシノキが北限のウルシノキとして有名ですが、現在の北海道ではほとんど生えていません。

しかし、道内各地、特に小樽市や恵庭市で多くの漆製品が出土していることから、小樽市から苫小牧市にかけては、縄文時代にそれなりの数が生育していたと考えられます。



ウルシノキと漆掻き

【写真提供：岩手県一戸町教育委員会】

北海道の漆製品

縄文時代には、漆は接着剤や、土器やアクセサリーに塗るために使われています。色は、赤と黒が多く、赤色はオレンジ色から濃い赤色まで幅があります。少しずつ色を変えた漆を塗り重ねることで鮮やかな色に仕上げる技術や、加熱した土器に塗ることで土器から剥がれにくくする焼付塗装といった、現代の塗装に通じる技術が使われています。

また、漆は、空気に触れるとガラスのように堅くなりますが、ヘアバンドやアクセサリーにするために、柔らかい状態を保つ、今では失われた技術も使われています。



函館市垣ノ島遺跡出土赤漆塗土器
【函館市所蔵】



恵庭市カリンバ3遺跡出土赤漆塗櫛（復元）
【恵庭市郷土資料館所蔵】

「縄文夏まつり」に行ってみよう！

《日時》令和2年8月1日（土）▶4日（火）
10:00～19:00 入場無料
（初日は11時から、最終日は17時まで）

《会場》札幌駅前地下歩行空間（大通駅側）

《内容》

北海道、岩手県、秋田県の縄文遺跡で見つかった土偶や漆塗のアクセサリーのレプリカや写真、世界遺産についてのポスターの展示

〇お問い合わせ
北海道環境生活部縄文世界遺産推進室
Tel 011-204-5168



文化財ニュースレター 文化財まる知ナビ No.49

発行 令和2年7月14日 編集・連絡先 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

【お問い合わせはこちらへ】電話 011-231-4111（内線）35-620 メール kyoiku.bunka2@pref.hokkaido.lg.jp